

(別添 4)

【沖縄県読谷村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

変化の激しい時代の中で生きていくためには、生涯にわたって自ら学んでいくことが必要となる。本村では、1人1台端末とクラウド環境を整備し、児童生徒の情報活用能力を育成する。1人1台端末やクラウド環境の整備により、多くの情報の中から自分が必要な情報を収集・整理し、自分の考えを表現することができる。また、友達の学び方を参考にしたり、友達の考えを知ったりすることで直接相談することもできる。一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログかといった「二項対立」に陥らないことに留意しつつ、教育 DX を推進する。

このように、1人1台端末とクラウドを活用した環境の中で、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、「生涯にわたって自ら学び続ける児童生徒の育成」を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

GIGA 第1期では、1人1台端末として iPad を児童生徒、教職員に整備し、通信ネットワーク環境を整えてきた。また、ICT 支援員の訪問支援等により各学校にて日常的な授業での利用を進めてきた。しかし、教職員によって利活用の差が見られるため、引き続き公開授業や研修会等でリーディング DX 指定校の実践事例を共有し、全校で実践が推進されるよう支援を継続する必要がある。

また、端末の故障台数増加という課題があり、第2期で更新を行い予備機を十分に確保することにより学びを止めないよう整備を行う必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

児童生徒が1人1台端末を「学びの道具」として活用し、学習方法などを選択するなど自ら学習を調整しながら進められるよう支援する。端末と大型掲示装置等を活用することで、教材等の配信のほか画面共有を行うなど、個々の児童生徒の学びを共有することが可能となる。児童生徒はクラウド環境において、共同編集したり、他者参照をしたりしながら主体的に学びを深めることができる。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく。

また、不登校の児童生徒、外国人児童生徒の対応、特別支援学級等でも積極的に活用し、学びの保障を確保していく。

このような学習を推進するため、端末の更新整備により、1人1台端末環境を引き続き維持することが必要である。